

## 偶然の出会い

バイオ統計センター 服部 聡

私が学部生時代を過ごした東京理科大学の応用数学教室は、山手線を中心あたりに位置する飯田橋の神楽坂キャンパスにあります。ここ神楽坂は芸妓さんを日常的に見かけるなど、とても風情のある魅力的な街です。神楽坂を降りて南に延びる道を 15 分ほど歩くと武道館に到着しますが、靖国通りを東へ向かうと神保町の街が見えてきます。神保町は、「いもや」という安くておいしい天井屋さんや、半チャンラーメンの発祥といわれる名物の巨漢の主人が鍋をふるう「さぶちゃん」など、昨今の言葉でいうところの B 級グルメの宝庫として有名ですが、何よりも靖国通りにびっしりと古書店が並ぶ本の街として有名です。講義の終わったあとに神楽坂からのんびりと歩いて古書を散策するのが私の楽しみでした。明倫館は、理工系の書籍を専門に扱う古本屋で、そのような古書店が存在すること自体が驚きでしたが、すでに絶版となった書籍や、非売品の研究集会の記録集など、通常の書店では手に入らないような文献も扱っているのは驚きでした。

当時の私の気掛かりは、3 年生に進級するための関門科目である統計学の単位をいかにとるかということでした。他の厳密な論理により構成されている数学科目に比べると、統計学は基礎理論のしっかりしない曖昧模糊とした科目に見え、勉強する動機が持てそうな気がまったくしませんでした。ある日ぶらぶらと神保町を散策していたとき、明倫館の書棚に E.L.レーマン著「統計的検定論」という見慣れない書籍を見つけました。岩波書店から出版され、すでに絶版となっていたこの訳書は、統計的仮説検定の基礎理論の体系化を現代的な数学理論により厳密に展開する意欲的であり難解な本で、武骨な二色刷りの装丁もあいまって、非常に高尚な学問的な香りに満ちていました。その醸し出す気高さに誘われるまま購入しましたが、統計学の単位をどうしようか悩んでいる学生がやすやすと読めるわけもなく、夢中でこの本と格闘していた日々がとても懐かしく感じられます。数年後、統計学を専攻すること、二十数年の後、統計学との縁により医学部で研究に携わることになること、統計学を通じて多くの素晴らしい人との出会いに恵まれることなどは、当時の私は夢想さえしませんでした。

素晴らしい書籍との出会いはときに人生まで変えてしまうことがあるということなのでしょう。昨今は電子書籍の普及が相当な勢いがありますが、気軽に手に取って、ぱらぱらとめくることでの偶然の出会いはとても重要な気がします。